

1. 授業のねらい・概要

この科目は、経営学を初めて学ぶ人が、経営および企業についての基礎知識を体系的に身につけることを目標とする。具体的には、経営学基礎、現代企業成長論、会社形態と企業内組織、経営戦略、企業の社会的責任という5つのパーツから、経営学の基本理論を学ぶ。

2. 授業の進め方

基本的には、参考文献等に基づき講義形式で行うが、一方通行の授業ではなく随所でケース・スタディを提示し、相互ディスカッションを含め、共に考える時間をとるようにする。

3. 授業計画

<p>1. イントロダクション： この科目の講義内容、進め方や評価方法</p> <p>2. 経営学基礎(1)： 経営とは何か、経営学でどのようなことを学ぶのか</p> <p>3. 経営学基礎(2)： 経営学の全体像と歴史、経済学や法学との関係</p> <p>4. 現代企業成長論(1)： 企業とは何か、起業や資金調達をどのように行うのか</p> <p>5. 現代企業成長論(2)： 企業成長を促すファクター（設備投資、人材育成等）</p> <p>6. 現代企業成長論(3)： 企業の成熟化と衰退・再生のメカニズム</p> <p>7. 会社形態と企業内組織(1)： 株式会社を中心とした機関構造や意思決定体制</p>	<p>8. 会社形態と企業内組織(2)： 組織マネジメントおよび生産性を高める仕組み</p> <p>9. 会社形態と企業内組織(3)： 合併、会社分割、持株会社設立等のトピックス</p> <p>10. 経営戦略(1)： 企業を取り巻く環境変化と経営計画の立案</p> <p>11. 経営戦略(2)： 経営計画を実行するための経営資源の配分、目標管理</p> <p>12. 経営戦略(3)： 企業決算の基本的な仕組み、利益配分の考え方</p> <p>13. 企業の社会的責任(1)： 企業は誰のものか、利潤最大化とはどのようなことか</p> <p>14. 企業の社会的責任(2)： 企業の社会的貢献の意義、広まりつつあるESG投資</p> <p>15. 全体のまとめ： これまでに学んだことの整理、今後の課題の提示</p>
---	--

4. 到達目標

経営学の基礎が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。また、現実の企業の経営戦略や株価の動きなど、ホットな話題にも適宜触れるので、関心のある業界や企業について、より深く研究しようという意欲が高まることを期待する。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

随所でケース・スタディを提示するので、予習として、問題点の整理や解決方法の模索を行ってほしい。また、授業後は、参考文献・ノート等に基づき復習して、自分なりに講義内容を体系立てて身につけておくことが望ましい。

6. 成績評価の方法・基準

100点満点の評価を、次の3つの要素に分ける。①授業に対する受講姿勢（20点）、②随所で提示されるケース・スタディについて課されるレポートの内容（20点）、③期末試験の成績（60点）。

7. テキスト・参考文献

参考文献として、加護野忠男・吉村典久『1からの経営学』碩学舎をあげておく。
また、授業の都度、適宜関連資料を配布する。

8. 受講上の留意事項

履修状況を見て、上記授業計画の一部を変更することもありうる。
また、理解度を見て、適切な参考文献を随時紹介する。